

# 各教育事務所の調査結果

## 天草教育事務所

- 1 教科に関する調査の結果
  - (1) 教科に関する調査の結果概要
  - (2) 教科に関する調査の成果と課題（小学校、中学校）
- 2 質問紙調査の結果
  - (1) 児童生徒に対する調査の主な結果
  - (2) 学校に対する調査の主な結果
  - (3) 質問紙調査に関する成果と課題
- 3 今後の重点取組

# 1－(1) 教科に関する調査の結果（公立小中学校）

本管内の概要

- ・ 小学校では、**算数と理科は全国平均を上回り、国語は全国平均を下回っている。**
- ・ 中学校では、**国語は全国平均とほぼ同じ状況であり、数学と理科は全国平均を下回っている。**

	【小学校6年生】		
	国語	算数	理科
管内	65%	64%	66%
県	65%	62%	63%
全国	65.6%	63.2%	63.3%

  

	【中学校3年生】		
	国語	数学	理科
管内	69%	49%	48%
県	68%	49%	49%
全国	69.0%	51.4%	49.3%

※表中の数値は平均正答率（%）、県の値は国から整数値で公表

# 1－(2) 教科に関する調査の成果と課題（小学校）

## 成 果

### 国語 成果が見られた内容

- 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける【関連問題 3二】
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う 【関連問題 3三イ】

### 算数 成果が見られた内容

- 示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる 【関連問題 1(3)】
- 目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる 【関連問題 3(3)】

### 理科 成果が見られた内容

- メスシリンダーという器具を理解している 【関連問題 2(1)】
- 実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる 【関連問題 3(4)】

## 課 題

※赤色のアンダーライン（依然として課題である問題）

### 国語 課題が見られた内容

- 登場人物の気持ちなどについて、叙述を基に捉える 【関連問題 2－(1)】
- 登場人物の相互関係について、描写を基に捉える 【関連問題 2－(2)】

### 算数 課題が見られた内容

- 示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる 【関連問題 1(4)】
- 分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる 【関連問題 3(2)】

### 理科 課題が見られた内容

- 提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる 【関連問題 1(4)】
- 自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる 【関連問題 2(3)】

# 1－(2) 教科に関する調査の成果と課題（中学校）

## 成果

### 国語 成果が見られた内容

- 場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する 【関連問題 3四】
- 行書の特徴を理解する 【関連問題 4一】

### 数学 成果が見られた内容

- 反例の意味を理解している 【関連問題 3】
- 多数の観察や多数系の思考によって得られる確率の意味を理解している 【関連問題 5】

### 理科 成果が見られた内容

- 節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる【関連問題 4(1)】
- 考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる【関連問題 5(3)】

## 課題

※赤色のアンダーライン（依然として課題である問題）

### 国語 課題が見られた内容

- 表現の技法について理解する 【関連問題 3一】
- 場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える 【関連問題 3三】

### 数学 課題が見られた内容

- 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる 【関連問題 6(2)】
- 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる 【関連問題 9(2)】

### 理科 課題が見られた内容

- 飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる 【関連問題 2(3)】
- 力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる 【関連問題 5(1)】

## 2 - (1) 児童生徒に対する調査の主な結果①

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの肯定的評価の合計を示す。(最下部除く)

単位(%)

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		管内	県	全国	管内	県	全国
慣 基 等 本 生 的 生 活 習	朝食を毎日食べていますか	94.4	94.6	94.4	92.3	92.8	91.9
	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	82.9	90.8	90.4	81.7	93.4	92.2
	普段(月曜日から金曜日)、一日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。)をしますか(「4時間以上」+「3時間以上、4時間より少ない」の割合)	24.7	29.4	30.7	19.3	24.6	29.8
自 挑 己 戦 有 規 用 範 感 意 等 識 、 達 成 感	自分には、よいところがあると思いますか	83.4	77.8	79.3	74.2	77.5	78.5
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	93.3	88.2	87.1	85.4	88.4	86.6
	将来の夢や目標をもっていますか	85.6	80.9	79.8	68.1	67.7	67.3
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.8	96.6	96.8	97.4	97.1	96.4
	学校に行くのは楽しいと思いますか	89.4	88.4	85.4	84.2	86.0	82.9
学 習 習 慣 等	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含みます。)	73.6	69.3	71.1	57.0	54.7	58.5
	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます。)(小学校は「30分以上」、中学校は「1時間以上」の割合)	89.6	85.1	85.2	73.1	66.1	69.5
	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)(「10分以上」の割合)	63.8	55.8	59.6	48.8	42.6	48.6
	家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか(「そのままにしている」の割合)	16.0	15.5	11.6	17.2	14.6	10.9

※第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン、「熊本の学び推進プラン」、「『熊本の学び』アクションプロジェクト」に関連する項目の中から抽出

## 2 - (1) 児童生徒に対する調査の主な結果②

単位(%)

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの肯定的評価の合計を示す。

	質問項目	小学校			中学校		
		管内	県	全国	管内	県	全国
地域社会や	今住んでいる地域の行事に参加していますか	68.1	55.3	52.7	56.4	40.7	40.0
	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか	58.6	52.1	51.3	44.9	42.5	40.7
活用ICT機器の	学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など）（「ほぼ毎日」+「週3回以上」の割合）	37.5	50.1	43.9	20.4	44.1	37.2
	学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（「ほぼ毎日」+「週3回以上」の割合）	17.0	26.8	22.5	4.4	25.4	17.8
	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	95.2	95.2	94.4	94.6	94.4	92.6
主体的・対話的で深い学びの 学習の時間	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	62.3	59.4	65.4	50.1	54.3	63.3
	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	78.7	74.7	77.3	72.1	73.0	79.2
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか	81.5	78.4	80.1	74.3	76.9	78.7
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	81.8	76.8	78.2	71.0	70.5	74.7
	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいましたか	80.0	73.2	72.7	76.6	71.3	72.1
理解度の	国語の授業の内容はよく分かりますか	87.3	85.1	84.0	81.2	77.1	81.2
	算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか	84.2	80.6	81.2	70.8	69.2	76.2
	理科の授業の内容はよく分かりますか	89.5	88.9	88.5	69.5	69.7	75.2

※第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン、「熊本の学び推進プラン」、「『熊本の学び』アクションプロジェクト」に関連する項目の中から抽出



# 2 - (2) 学校に対する調査の主な結果①

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの肯定的評価の合計を示す。

単位(%)

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		管内	県	全国	管内	県	全国
指 生 導 徒	調査対象学年の児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	77.4	87.5	87.2	89.5	92.1	95.6
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか	96.8	99.4	98.7	100	99.4	98.1
向 学 上 校 に 関 連 運 営、 教 員 の 資 質 の 状 況	校長として、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか	83.9	84.2	73.2	57.9	70.5	55.7
	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	100	95.1	94.8	100	92.7	91.3
	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	100	96.3	94.2	100	96.3	93.3
	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加含む)	90.3	83.8	76.0	94.7	88.6	73.0
に び 主 関 的 視 的 点・ 取 組 か 対 話 的 状 況 の 授 業 改 善	調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	90.3	91.8	87.2	89.5	87.4	87.9
	調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	83.9	78.3	75.1	73.7	78.9	80.7
	調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	80.6	84.1	80.9	89.4	84.3	86.2
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	93.5	91.8	88.0	94.7	93.4	88.2
家 庭 学 習	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか	100	97.9	96.5	100	95.8	93.6
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしましたか	100	93.9	89.7	92.3	95.2	86.9

※第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン、「熊本の学び推進プラン」、「『熊本の学び』アクションプロジェクト」に関連する項目の中から抽出

## 2 - (2) 学校に対する調査の主な結果②

数値は、選択肢「よく行った」「どちらかといえば、行った」などの肯定的評価の合計を示す。

単位(%)

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		管内	県	全国	管内	県	全国
ICT	調査対象学年の児童生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索）では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか（「ほぼ毎日」+「週3回以上」の割合）	76.4	69.6	61.9	31.6	62.1	56.2
	調査対象学年児童生徒同士がやりとりがやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますかどの程度行っていますか（「ほぼ毎日」+「週3回以上」の割合）	52.9	42.4	31.3	42.1	40.9	27.8
小中連携	前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	76.4	58.5	52.7	84.6	65.7	61.1
	前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか	82.3	51.5	48.2	77.0	65.1	58.0
の全学調の結果等活用	令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	100	97.6	95.9	100	98.8	92.7
	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	100	97.3	91.7	100	97.0	88.5
症新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 への 対 応	令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による、調査対象学年の児童生徒に対する、夏季等の長期休業期間の延長、臨時休業、短縮授業・分散登校の期間中、家庭での学習としてどのようなものを行っていましたか（「全校で実施」+「一部の学年・学級で実施」の割合）						
	・教科書による学習（デジタル教科書を含む）	5.9	55.2	36.0	15.8	53.0	33.6
	・学校が作成したプリントなどによる学習（電子メールや学校のホームページなどを活用して配信する場合を含む）	23.5	59.8	41.7	26.3	56.6	39.8
	・同時双方向型オンライン指導を通じた学習	5.9	48.8	25.5	10.5	47.5	24.8

※第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン、「熊本の学び推進プラン」、「『熊本の学び』アクションプロジェクト」に関連する項目の中から抽出



## 2 – (3) 質問紙調査に関する成果と課題

### 【児童生徒に対する調査から】

○「総合的な学習の時間での自分で課題を立てて情報を集め、整理し、調べたことを発表するなどの学習活動」に取り組んだ児童生徒の割合は全国や県の平均を上回っている。

→総合的な学習の時間の質が向上していると考えられる。

▲「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した」の児童生徒の割合は全国の平均を下回っている。

→発表の場の工夫と発表の仕方の指導が十分ではないと考えられる。

▲「学校でICT機器を友達と意見交換したり、調べたりするために使用している」という児童生徒の割合は全国や県の平均を下回っている。

→授業でICTを活用する場面が限定的になっていることが考えられる。

### 【学校に対する調査から】

○すべての小中学校で「PDCAサイクル」が確立されており、また、「家庭学習の課題の課し方」の共通理解が図られている。

→校内研修等の充実により、教師の意識が向上し、学力向上検証改善サイクルが進んでいることが考えられる。

▲新型コロナウイルス感染症への対策としてのオンライン等の活用は、全国または県の平均を大きく下回っている。

→双方向でのオンライン等の活用の取組実践が進んでいないと考えられる。

### 3 今後の重点取組

- 重点事項①「子供たちの『学びの視点』からの授業改善」
  - ・児童生徒の疑問や興味関心を引き出す導入の工夫を行い、児童生徒が学びのイメージを持てる学習課題設定の重点化を行う。
  - ・児童生徒自身が、考えを確認・共有・比較・集約・拡散するように、教師が児童生徒の発言等をコーディネートする。さらに、児童生徒が主体となる学びの場の充実を図る。
  - ・「熊本の学び」における授業づくりのポイントのさらなる共通実践を図る。
- 重点事項②「知識・理解の確実定着な定着と家庭学習の充実」
  - ・単元ごとに定着確認し、未定着の事項について粘り強く指導を行う。
  - ・授業等で個に応じた指導や習熟度別指導を行い、分かる喜びを実感させるとともに、振り返りの場を工夫することで、児童生徒の主体的な家庭学習につなげていく。
  - ・課題を課題のまま残さないよう、分析結果を学校総体で共有し、個々のつまづきをさかのぼって丁寧に指導する。
  - ・PDCAサイクルでの実践をさらに推進する。
- 重点事項③「学びに向かう環境づくり」
  - ・3つのキーワード（自己決定・自己存在感・共感的人間関係）に基づく学級づくり、授業づくりを推進する。
  - ・個別最適化の学びを推進するため、効果的にICT機器を活用する。
  - ・小中連携を図りながら、学習規律の指導と徹底を図る。